

あなたのどこかに、心を開く鍵がある。



この秋、新しいクラシカル・ファンタジー

秘密の花園

THE SECRET GARDEN

ワーナー・ブラザー映画提供/アメリカン・ソートロー・プロダクション

アニメスカ・ホーランド作品「秘密の花園」ケイト・メイバリー/ヘレン・ブラウス/アンドリュー・ノット/マギー・ミス

編集:イザベル・ロレンテ/美術:スチュワート・クレイ/撮影:ロジャー・ディーキンズ

音楽:シグニュー・プライスナー/製作総指揮:フランシス・フォード・コッポラ/脚本:キャロライン・トンプソン

原作:フランシス・ホジソン・バーネット/製作:フルード・ワックス、フルード・ローズ&トム・ラディ/監督:アニメスカ・ホーランド/原作:新潮文庫刊「秘密の花園」

フランシス・フォード・コッポラ製作総指揮 永遠の名作「秘密の花園」ついに完全映画化!

あれから、どれだけ
大人になったのだろう。
いまでは埃をかぶったままとなつてしまった小さな本、
「秘密の花園」。
あの日から
遠く離れてしまった私は、
いま、かつての私の旅へ出る……。

あの日に戻って、
秘密の扉をそっと
押してみませんか……

その枯れた蔦と、もはや形状を無くしかけている鍵に長い間封印されていた花園には、輝かしいほどの思い出と、それがいまも色褪せないひとりの男の苦悩が満ちていた。花園の鍵を開けたのはひとりの少女。男の苦悩をゆるやかに溶かしていったのは、ヨークシャー地方の芳しい自然と、愛するがゆえに憎しみの対象でしかなかった、彼の幼い息子だった……。

1910年、アメリカ、ヨーロッパを初めとする世界各国でひとつのエポックが生まれた。「小公子」「小公女」で児童文学の新たな境地を探りあてた作家フランシス・パーネットが、新作を書き上げたのだ。タイトルは「秘密の花園」。ドラマチックなストーリー展開を得意とし、児童文学の域を超えて、大人の読者までも夢中にさせてきたパーネットの、それは最高傑作といわれるものであった。

そして1993年、ここに映画という新たなファクターを得て「秘密の花園」



が現代に蘇った。映画「秘密の花園」はフランシス・フォード・コッポラ製作総指揮によるこの秋最高のクラシカル・ファンタジー。「人間の豊かな愛を信じるすべての人に、この映画は贈られる……」コッポラはこう語った。

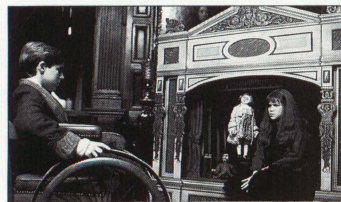
愛をあきらめないで
愛に臆病にならないで

裕福だが、人の愛情を受けたことのない10歳の少女メアリーはある日、両親の突然の死によって、会ったこともなかったひとりの伯父の元に預けられる。しかし彼女はそこで、伯父の苦悩を封じ込めた「秘密の花園」の存在を知る。伯父の愛する妻が死んでからというもの、10年間封印されたままの

少女の頃、
枕のすぐ横に置いてあった。
姉さんの目をかすめて、
泣きながら読んだこともあった。
もっと幼い時は、
母が読んでくれた。
あれから、いくつ
恋をしたのだろう。

花園。そこに人々が近づくことさえ、彼は禁じていた。ある日、木々の間に微かに見え隠れする扉を見つけたメアリーは、おそろおそろ取っ手に手を掛ける。そこは長い間手入れされずにいたため、荒れ放題であったにもかかわらず、芳醇な匂いで溢れかえっていた。彼女は花園を蘇生させることによって雄大な自然の恵みを受け、友達のディコンとマーサの優しい愛情で初めて人間らしさを取り戻していく。それはメアリーを取り囲む人々、妻の死から立ち直れない伯父、その伯父の苦悩を一身に背負ってしまった病身のコリンまでもを、幸福へと導くのであった……。

監督は、「僕の愛したふたつの国／ヨーロッパ、ヨーロッパ」で'91年度ゴールデン・グローブ賞を受賞し、一躍注目を集め、コッポラによってハリウッド進出第一作目の監督作品として「秘密の花園」をまかされることになった、ポーランドの女流監督アニエスカ・ホーランド。女性らしいみずみずさと、完璧さを求めたかのような美しい映像が見事に相まって、ここに'93年最高の名作が誕生したといえよう。



オリジナル・サウンドトラック/SLCレコード



赤い羽根募金推薦

共同制作



今秋ロードショー! 特別鑑賞券〈一 ¥1400/堂 ¥1200/券 ¥2600〉発売中

渋谷東急文化会館5階

渋谷

谷

東

急

03
(3407)
7029

歌舞伎町ミラノ座隣り

新宿

宿

東

急

03
(3200)
1981

池袋東口・サンシャイン60階通り

シネマサンシャイン1

03
(3982)
6101